

東北地方 1か月予報

(12月8日から1月7日までの天候見通し)

平成24年12月7日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の変動が大きい見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

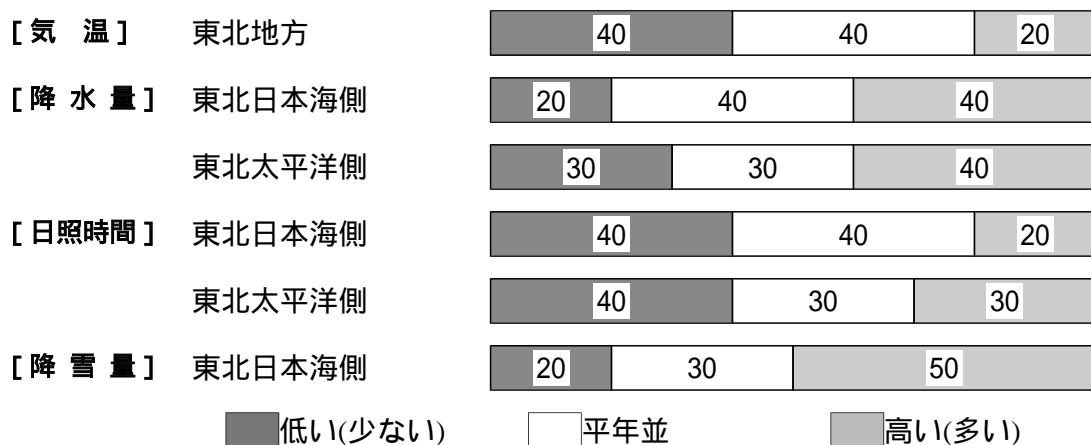
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

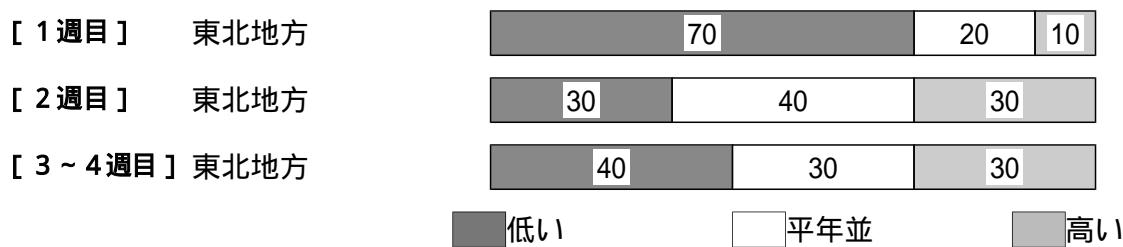
向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、東北日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。東北日本海側の降雪量は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

- 1か月 : 12月 8日(土) ~ 1月 7日(月)
1週目 : 12月 8日(土) ~ 12月 14日(金)
2週目 : 12月 15日(土) ~ 12月 21日(金)
3~4週目 : 12月 22日(土) ~ 1月 4日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は12月14日

3か月予報：12月25日(火) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3~4週目
青森	0.6	151.7	49.7	176	1.9	0.9	0.2
深浦	1.7	127.1	29.3	81	2.9	1.9	1.2
むつ	0.5	106.6	69.5	110	1.7	0.8	0.1
八戸	0.9	47.7	124.7	49	2.2	1.2	0.4
秋田	2.0	150.8	41.5	94	3.3	2.3	1.5
盛岡	0.1	65.1	102.2	61	1.4	0.4	-0.4
大船渡	2.8	48.5	132.9	12	4.1	3.1	2.2
宮古	2.2	60.9	148.5	22	3.6	2.5	1.7
仙台	3.6	35.5	139.7	9	5.0	4.1	3.1
石巻	2.7	31.9	151.6	0	4.0	3.0	2.1
山形	1.7	89.8	78.6	105	3.1	2.1	1.1
新庄	0.8	226.2	37.2	197	2.1	1.1	0.3
酒田	3.7	202.5	39.5	71	5.1	4.0	3.2
福島	3.5	43.5	123.8	41	4.9	3.9	2.9
若松	1.3	101.7	70.4	113	2.8	1.8	0.7
白河	2.2	35.6	149.1	33	3.6	2.6	1.6
小名浜	5.6	40.9	185.5	-	7.0	6.0	5.1

小名浜の降雪量の平年値はありません。なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1981~2010年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.1 ~ +0.6	76 ~ 101	95 ~ 104	73 ~ 113
東北日本海側	-0.2 ~ +0.6	90 ~ 106	89 ~ 105	77 ~ 114
東北太平洋側	-0.1 ~ +0.6	64 ~ 101	97 ~ 106	65 ~ 115

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.5 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.8	-0.3 ~ +0.7
東北日本海側	-0.5 ~ +0.7	-0.7 ~ +0.8	-0.4 ~ +0.7
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.8	-0.2 ~ +0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1981~2010年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成24年12月7日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月（12月8日～1月7日）：

冬型の気圧配置がやや強く、東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。期間の前半は気温の変動が大きい見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、東北日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。東北日本海側の降雪量は、多い確率50%です。

1週目（12月8日～12月14日）：

気圧の谷や寒気の影響で、曇りや雪または雨の降る日が多いですが、期間の後半は東北太平洋側では晴れる日があるでしょう。なお、期間の前半は強い冬型の気圧配置の影響で、東北日本海側を中心に荒れた天気となり、大雪となるおそれがあります。

気温は、低い確率70%です。

2週目（12月15日～12月21日）：

冬型の気圧配置は一旦緩み、低気圧の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

気温は、各階級の確率の偏りは小さい。

3～4週目（12月22日～1月4日）：

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は、各階級の確率の偏りは小さい。

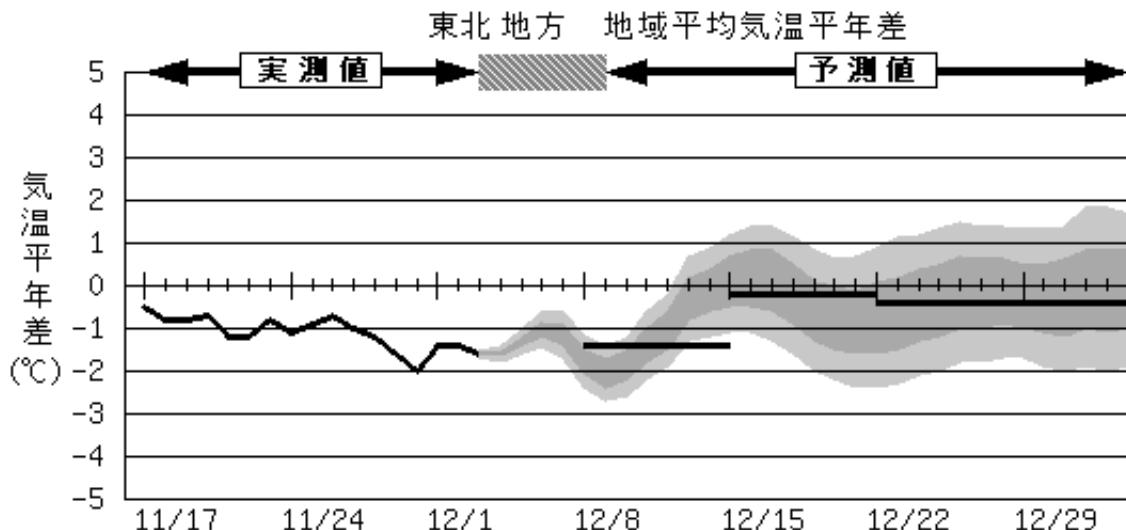
主な気象官署の、向こう4週間の平年の天気出現日数（日）

青森	秋田	盛岡	仙台	山形	福島
晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水
4.5	19.0	3.3	19.6	12.2	9.8
				16.8	4.5
				8.0	13.1
					14.8
					6.5

晴れ日数は「日照率40%以上の日数」、降水日数は「日降水量1mm以上の日数」。

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と予測資料

地域平均気温平年差の予測資料では、週別の平均気温は、1週目は平年を下回り、2週目、3～4週目は平年付近の予想となっている。



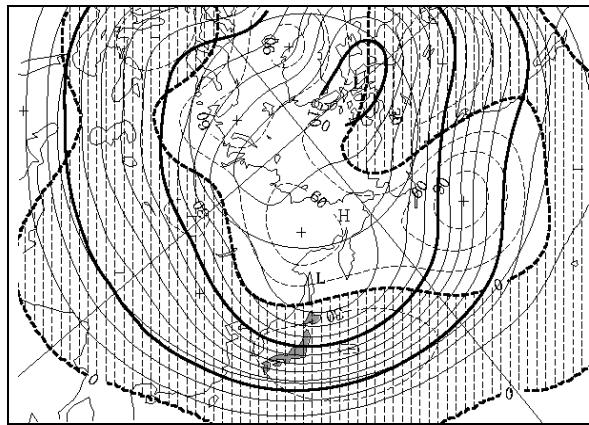
- グラフの値は全て7日間平均値であり、横軸の値は平均期間の中日。
- 予測期間には7日間平均気温の予想に対する信頼の程度が40%の幅(濃い陰影の範囲)と、信頼の程度が70%の幅(濃い陰影と薄い陰影の範囲)を表示。
- 水平な3本の実線は、予報期間の1週目、2週目、3～4週目の平均を表す。
- ハッシュの期間は、発表日の観測値が確定していないため、観測値と予測値に基づいて結んでいる。

3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本を含む中緯度帯は帶状に広く負偏差となり、日本付近は寒気の影響を受けやすい見込み。地上予想図(図略)では、冬型の気圧配置はやや強い予想となっている。東北地方の気温は低い傾向で、東北日本海側の降雪量は多い見込み。なお、期間の前半は気温の変動が大きい予想。

1週目: 中央シベリアが明瞭な正偏差、日本付近は明瞭な負偏差となる。日本付近の負偏差は大きく、強い寒気の南下が予想される。東北地方は期間の前半を中心に強い寒気の影響を受け、気温は低い見込み。

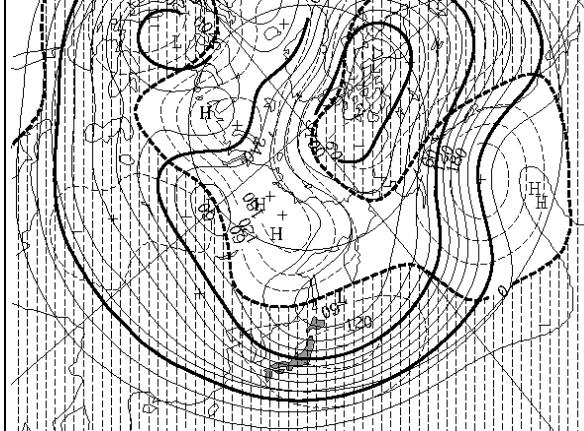
2週目: 日本を含む中緯度帯は帶状に広く負偏差の状態が続くが、日本付近の偏差は小さい。一旦寒気は緩む予想で、東北地方の気温は平年程度の見込み。



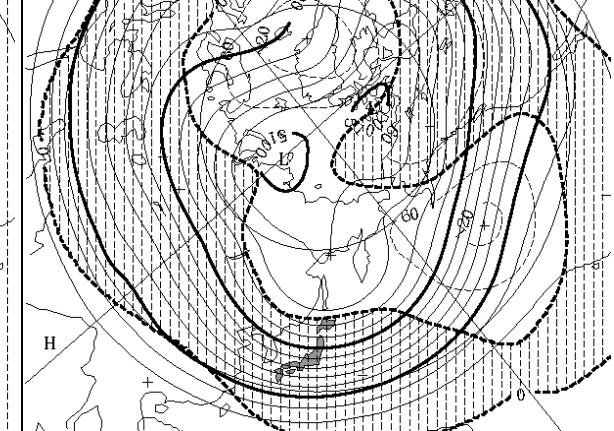
1か月平均 500hPa 予想天気図

図の見方は1, 2週目と同じ。ただし偏差の間隔は30m。

寒気は緩む予想で、東北地方の気温は平年程度の見込み。



1週目平均 500hPa 予想天気図



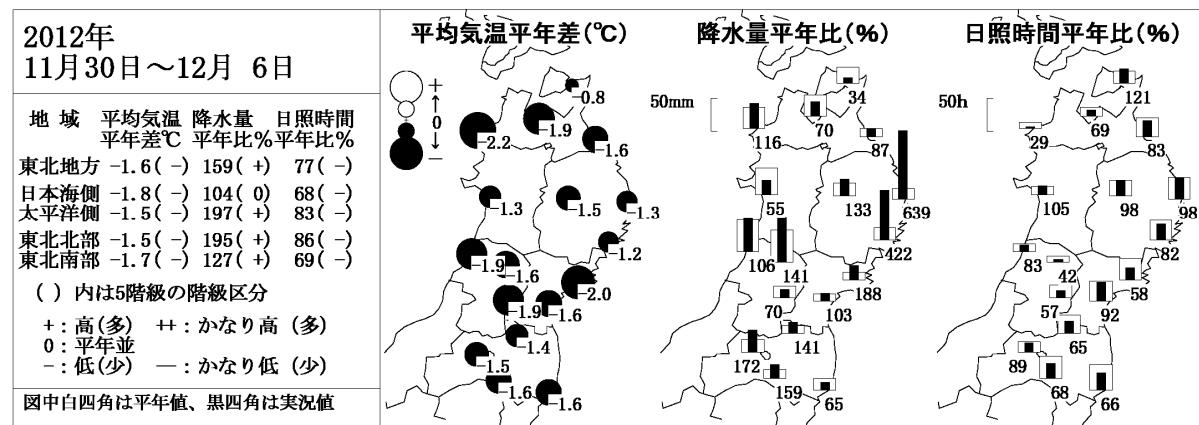
2週目平均 500hPa 予想天気図

実線は等高度線(間隔 60m)、点線は偏差(間隔 60m)。陰影部は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。

4. 最近1週間(11月30日～12月6日)の天候の経過

この期間、低気圧と高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となった。東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わった。期間のはじめを中心に強い寒気が南下したため、気温は低くなった。4日から5日にかけては低気圧が三陸沖を北に進み、また、寒冷前線が通過したため東北太平洋側を中心に大雨の所があり、岩手県では日降水量が100mmを超えた所があった。6日は寒冷前線が通過したため秋田県と山形県で大雨の所があった。また、冬型の気圧配置となった1日と5日から6日にかけては青森県と山形県で大雪の所があった。

平均気温は低い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)